

[成果情報名] ズワイガニの資源動向

[要 約] 本県沖におけるズワイガニ資源は夏季調査で今期（2022年）は最高水準にあると推定され、好漁となった。豊度の高い稚ガニが順調に生き残り、漁獲加入したためと考えられた。好漁は2023年漁期まで続くが、以後、一時的に漁獲水準は低下すると予測された。また、漁業者の自主規制の取り組みについては、具体的な効果など科学的データの提示によって支援してゆく。

[部 署] 山形県水産研究所・海洋資源調査部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 政

[キーワード] ズワイガニ、漁期、カニかご調査、齢期

[背景・ねらい]

本県底びき網漁業の重要魚種であるズワイガニについて2022年漁期の好漁の要因と今後の動向を検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 本年（2022年10～12月）のズワイガニ漁は47トン（平年（2017～2021年）の187%）と好漁で、漁期前の本県沖のカニかご調査（夏季調査）によって示唆された資源水準の高さを反映した漁模様となった（図1）。この高水準の資源状態は、水産研究・教育機構 水産資源研究所が実施した天鷹丸による大型桁曳網採集調査（広域調査）において2019年の調査で確認された豊度が高い年級群（8～9齢期）が順調に生き残り、漁獲加入したためと考えられた（図2）。
- 2 今後の動向については、広域調査によって得られた漁獲加入前の90mm未満の甲幅組成（雄）に基づいて、2023年漁期（10月～）は好漁、2024～2026年の漁期は漁獲水準が低下すると予測された。また、5～6齢期（10～20mm）の稚ガニ（雄）が多かったことから、2027年漁期頃には再び好漁となる兆しもある（図2）。
- 3 本漁期は初漁日から小型のオスガニ（0.3～0.5kg、12齢期）が多いという状況であった（図3）。これは夏季調査においても同様の結果であった（図4）。底びき網漁業者は10月中旬から0.3kgサイズの小型ガニの水揚げ規制を行った。本研究所では、小型ガニの多くは未成熟ガニであり、今漁期での漁獲を控えることによって次漁期に大型サイズとして漁獲できる可能性を説明し、自主規制の取り組みを後押しした。

[成果の活用面・留意点]

- 1 夏季調査は隣県の新潟や秋田県でも行われている。その採集尾数の増加は山形県が最も大きく、漁業者が自主的に取り組んでいる曳網回数の制限が成果として表れてきているものと考えられた。
- 2 資源水準や漁獲物のサイズ構成、資源動向の予測は、資源管理や大型ガニ（庄内北前ガニ）の増産にとって重要な情報であり、引き続き提供していく。

[具体的なデータ]

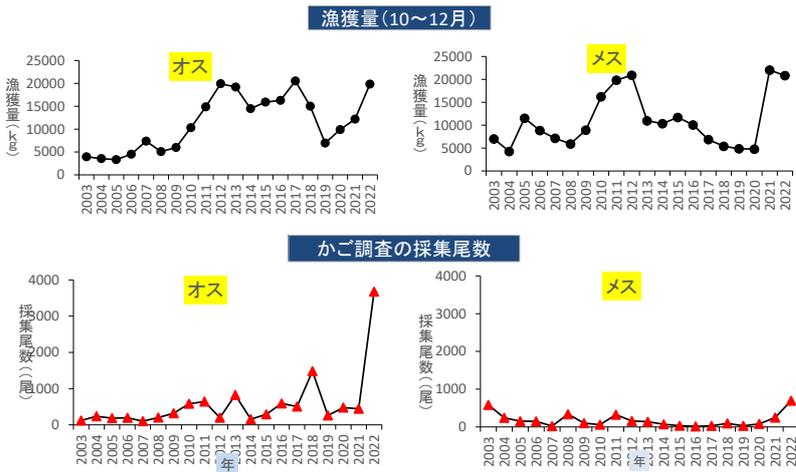


図1 ブワイガニの漁獲量（全県）とカニかご調査による総採集尾数（鼠ヶ関海域）の推移

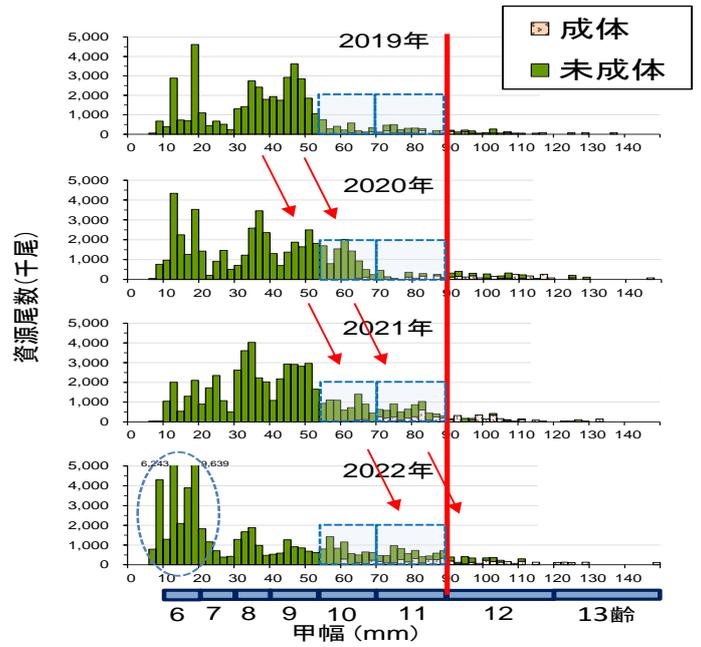


図2 日本海北部における広域調査の結果(オス)
(令和4(2022)年度ブワイガニ日本海系群B海域の資源評価(速報版)を一部改変)

縦軸は調査時点(7月)の資源尾数を示す。
横軸は甲幅(mm)、各齢期サイズを枠で示す。
太実線は漁獲規制サイズの甲幅90mmを示す。

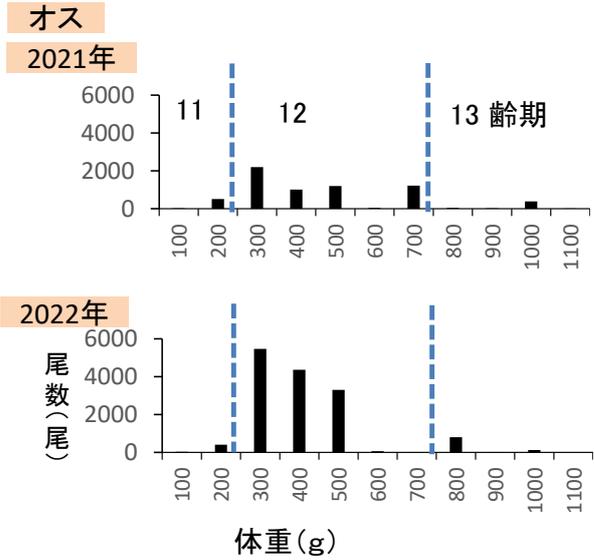


図3 県漁協念珠関総括支所における漁獲物の体重組成
(上段:2021年10月、下段:2022年10月)

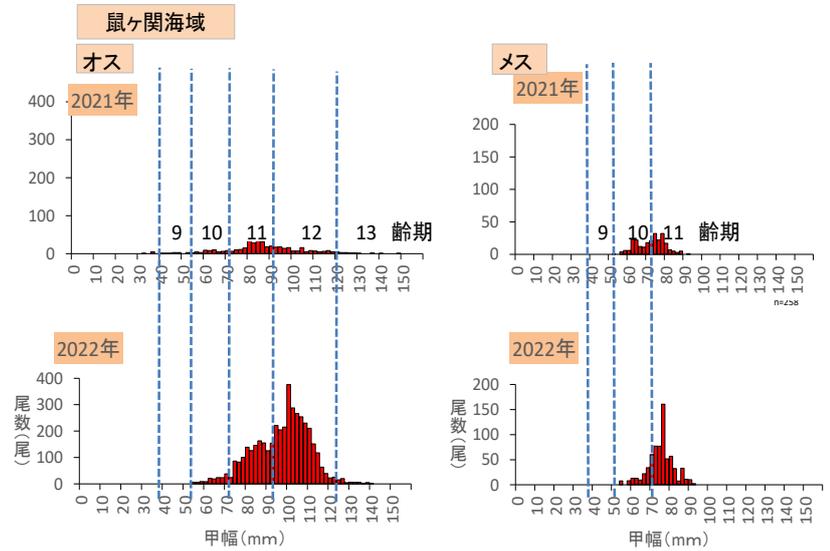


図4 カニかご調査(夏季調査)における齢期別組成
(上段2021年、下段2022年)

[その他]

研究課題名：資源評価調査
 予算区分：受託
 研究期間：令和4年度(平成23年度～)
 研究担当者：平野 央、藤原 邦浩(水産研究・教育機構)
 発表論文等：なし